

国内農業の2019年名目国内総生産（GDP）は、約4兆7000億円に上る。実は日本の農業は、その生産額の国別ランキング（国連調べ）で第8位の一大産業であり、特に地方において重要な産業セクターだ。

リース業界最前線

業者減少が重なる現状は、日本の農業の大きな課題となっている。しかし、この状況をむしろチャンスと捉えた変革の兆しが見えつつある。例えば、後継者不足は結果として農地の集約化を促すことになり、1戸当たり農地面積はここ20年で倍増した。これは事業者の機械化を促し、生産性の向上をもたらしている。

機械化・環境対応進む農業

スマート化投資支える

増加し、この10年で倍増した。これについて政府は30年に輸出額を20年比約5倍の5兆円とする目標を掲げ、強化策の展開を図っている。さらに、昨今の国際情勢、異常気象などによる食料安全保障の観念も、日本の農業振

増加し、この10年で倍増した。これについて政府は30年に輸出額を20年比約5倍の5兆円とする目標を掲げ、強化策の展開を図っている。さらに、昨今の国際情勢、異常気象などによる食料安全保障の観念も、日本の農業振

増加し、この10年で倍増した。これについて政府は30年に輸出額を20年比約5倍の5兆円とする目標を掲げ、強化策の展開を図っている。さらに、昨今の国際情勢、異常気象などによる食料安全保障の観念も、日本の農業振



三井住友ファイナンス&リース執行役員 営業推進開発部長 大村 尚之